

4年生の実践（2年次 6月3日）

本時の視点

けんじがビニール袋を取りに行くか葛藤する場面において、ハートメーターを活用して話し合うことにより多面的・多角的な考えに触れることを通して、約束やきまりを守ることの意義について考えを深めることができるであろう。

1. 主題名 「気持ちよい生活のために」 (C 規則の尊重)

2. ねらいと資料

(ねらい) 公共の場において守るべき事柄を理解し、きまりを大切にしようとする心情を育てる。

(資料名) 「けんじのわすれ物」

(出典；文溪堂 「4年生のどうとく」)

3. 主題設定の理由

(1) 価値観

本主題は、学習指導要領の内容項目「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「規則の尊重」における第3学年及び第4学年の「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」を受けて設定されたものである。これは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。これは、第1学年及び第2学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を受けたものであり、さらに、第5学年及び第6学年の「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に発展していく。

約束やきまりは、人が集団や社会を構成する一員として、安全にかつ安心して生活する上で必要なものである。なぜなら、約束やきまりを守ることにより、自分ばかりでなく、他の人の幸せも保証され、円滑に社会生活を営めるようになるからである。そして、このことにより、人と人がよりよい人間関係を築いていくことにもつながるものであると考えられる。このことから、進んで約束やきまりを守って行動することの意義をとらえ、社会の一員として人のことを考えて行動しようとする態度を養うことが大切である。

この時期の児童は、学校や公共の場においても守るべききまりについては理解できているが、気の合う仲間や集団の中に自分たちのきまりをつくり、それを大切にしようとする傾向がある。現実にはなかなか守ることができなかったり、きまりの意義まで深く理解せず、「きまりだから守る」といった表面上の理解にとどまってしまっていることもある。そこで、自分も社会の一員であることを自覚して、みんなが気持ちよく生活するためにきまりはあり、きまりを守ることでよりよい人間関係を築くことができるということを、深く考えることが必要であると考えた。

これらのことは、本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながると考える。

(2) 児童観（児童数31名）

きまりを守ろうとする心情を育てるために、4年生になってから次の指導を行ってきた。社会科「安全なくらしを守る」の単元では、火事の原因や身近にある防火設備を調べ

せることにより、火事を防ぐために様々なきまりがあり、それらを守ることがくらしの安全を守ることにつながることについて考えを深めることができた。また、「住みよいくらしを守る」の単元では、家庭ごみやごみ集積所について調べさせることで、ごみを出すときのマナーや分別のきまりがあることに気付かせた。その結果、みんなが住みよいくらしを守るために様々なきまりや約束があり、それらを守らなければならないことについて考えを深めることができた。

図画工作「コロコロガーレ」では、のこぎりやかなづちの使用時の約束を確認し、安全に制作するためには約束を守らなければならないことについて考えさせた。ほとんどの児童が、約束を守って安全に使用することができた。

学級活動「クラスを楽しくする係を決めよう」では、係ごとにクラスみんなに守ってほしい約束を考えさせた。係カードに掲示したり帰りの会で知らせたりすることで、クラスがよりよくなるために約束を守ろうとする気持ちが育ってきている。掃除当番では、自分だけでなく、他のクラスや他学年の児童も気持ちよく生活するために掃除をすることの大切さについて指導してきた。その結果、学校という集団の一員として、きまりや約束を守ることへの意識も高まってきている。

学校行事においても、きまりや約束を守ることの大切さについて考える機会を設けてきた。交通安全教室では、自転車の安全な乗り方や交通ルールについて学び、その大切さについて考えてきた。児童は、自転車を乗るということは、被害者だけでなく加害者にもなるということに気付き、交通ルールを守ろうとする心情が高まった。社会科見学の事前指導においては、学校以外の公共の場におけるきまりや望ましい態度について学んできた。このことで、公共の場におけるきまりを守ることの大切さについて感じる事ができた。

このように、様々な活動を通して、きまりや約束を守ることの大切さについて考えることができたが、学校や学級での約束やきまりなど、社会のルールを守ろうと意識している児童が多い一方、休み時間に廊下や教室で走ったり、トイレのサンダルをそろえなかったり、休み時間が終わっても席に着けなかったり、給食のごみを散らかしっぱなしにしたりしてしまう児童も見られる。約束やきまりを守っている児童も、親や教師に叱られたくないから、という他律的な理由であることが多い。

このような姿は、「きまりは守るべきもの」と理解しているものの実際の生活場面では行動に移せないこと、他者からの強制で守られているという意識を持っていること、他の児童が守らなければ自分もよいだろうと考えていることが原因として考えられる。

そこで本時では、自分の行動を振り返って約束やきまりを守ろうとするときの多様な感じ方や考え方に触れさせることにより、約束やきまりを守ることの意義について考えを深めさせたい。

(3) 教材観

不可抗力によってごみを発生させてしまったことで、けんじはビニール袋を取りに行くか取りに行かないか迷う。このようなきまりを守るか迷う場面は、日常生活の中にもよく見られることであり、葛藤するけんじの心情に共感させることで、人間理解を深めたい。また、いったんは見えて見ぬふりをしてしまう場面では、けんじの気持ちを自分との関わりで考えさせ、きまりを守ることの実現の難しさに気付かせていきたい。「忘れ物はありませんね。」と言われてどのように行動するか葛藤する場面においては、多面的・多角的な感じ方や考え方に合わせ、他者理解と共に価値理解を深めていく。迷った末に、最後には「忘れ物をしました。」と言って取りに行くことを選択したけんじの行動を通して、約束やきまりを守ることの意義を理解し、その大切さを実感させることのできる有効な資料であると考える。

4. 指導方針

〈研究主題に迫るために〉

- 自分や友達の思いや考えの共通点や相違点に気付き、よりよく伸びようとする心情を育むような学級作りに努める。
- 自分の思いや考えを友達と伝え合い、多面的・多角的な考えに触れ合う機会を意図的に設ける。

〈事前〉

- 公共の場でのきまりや約束についてその意義をとらえさせるために、社会科見学の事前指導で、公共施設では、静かに話を聞くことや、展示物等に触れないこと、昼食時に出たごみは持ち帰ることなどについて指導しておく。

〈本時〉

【課題をつかむ】

- 約束やきまりを守ることへの意欲付けをするために、社会科見学での写真を提示することで公共の場での約束やきまりを守ってきた経験を想起させる。

【価値を追求する】

- 揺れ動くけんじの心情に共感でき、自分との関わりで考えられるよう、ハートメーターを用いる。
- 枯れ枝に引っかかっているビニール袋を見つめていたときのけんじの葛藤を視覚的にとらえやすいように、児童の考えを類型化して板書する。
- 誰もがもっている心の弱さに共感させるために、友達の誘いに乗ってビニール袋から目をそらしたけんじの心情を押さえる。
- 多様な考え方・感じ方に気付かせるために、ビニール袋を取りに行くことを決意するまでの葛藤をハートメーターを活用しながら思いや考えを話し合わせる。
- きまりを守ることのよさに気付かせるために、「忘れ物をしました」と言ってビニール袋を取りに行ったけんじが最後に気付いたことを問う。

【価値の内面化】

- 自分を見つめ直し、道徳的価値の自覚を深めると共に、自分の未来に希望がもてるようにするために今後の自分を考えさせる。
- 一人一人じっくりと自分を振り返ることができるよう、ワークシートを活用する。
- きまりを守ることの難しさや周りの人の気持ちに気付かせ、自分事として考えられるようにするために、トイレでのサンダルがそろえていないことや廊下を走っていること等を例示する。
- きまりを守ることのよさを実感できるようにするために、トイレのサンダルがそろっている写真を提示する。
- 人間理解、他者理解を図り、道徳的な価値の理解を深めていくために、教師の説話では、約束やきまりを守ることの大切さや難しさに気付くことができるような体験談を話す。

〈事後〉

- 学級活動の時間などを使って、きまりを守っている児童を称賛する。
- 道徳通信で道徳の時間での学習内容を伝えたり、児童が使用するワークシートに家庭欄を設けたりして、道徳的価値について家庭でも話し合える時間を設け、連携を図りながら実践意欲を育んでいく。

5. 本時の学習

(1) **ねらい** 公共の場において守るべき事柄を理解し、きまりを大切にしようとする心情を育てる。

(2) **準備** 教師：場面絵 ワークシート
写真（トイレのサンダルの様子・社会科見学での様子）

児童：筆記用具

(3) 学習指導過程

過程	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点（・）評価（◆）
課題をつかむ	1. 社会科見学での経験を思い出し、公共の場においてどのようなことに気を付けたか発表する。 (社会科見学の時に、どんなことに気を付けましたか。)	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに話を聞く。 ・勝手にさわらない。 ・お弁当やお菓子のごみを家に持ち帰る。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学の写真を提示し、経験を想起させることにより、公共の場でのきまりに関心を持たせる。
価値を追求する	2. 資料「けんじのわすれ物」を読んで話し合う。 (1) 枯れ枝に引っかかったビニール袋を見ていたときのけんじの気持ちを考える。 (敷物を入れる袋が風で飛んでしまって、遠くの枯れ枝に引っかかったのをしばらく見ていたけんじは、どのようなことを思っていたのでしょうか。)	<ul style="list-style-type: none"> ・このままではいけない。取りに行かなくちゃ。 ・しまった。風に飛ばされてしまった。どうしよう。 ・あんな遠くじゃ、取れないよ。 ・このままにしておこう。 <p>【価値理解】【他者理解】 【人間理解】</p>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を提示し、遠足での出来事であることを押さえることにより、登場人物に親近感を持たせ、資料への興味・関心を喚起する。 ・ハート（ビニール袋を取りに行こうとする気持ち・迷う気持ち・取りに行かない気持ち）を提示し、児童の発言を類型化して板書することにより、けんじの心が揺れ動いていることに気付かせる。 ・発言が少ないときは、けんじになったつもりで考えるように助言する。 ・多様な意見が出ない場合は、「しばらく」に着目させ、けんじが色々考えていることに気付かせる。
	(2) ビニール袋から目をそらして友達の方に走っていったけんじの気持ちを考える。 (ビニール袋をそのままにして目をそらすと、	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も見ていないから、ばれないよ。 	分	<ul style="list-style-type: none"> ・建前だけではなく人間の弱さにも向き合うことができるように、言い訳を並べながらも誘惑に負けてしまうけんじの心の弱さに共感させる。

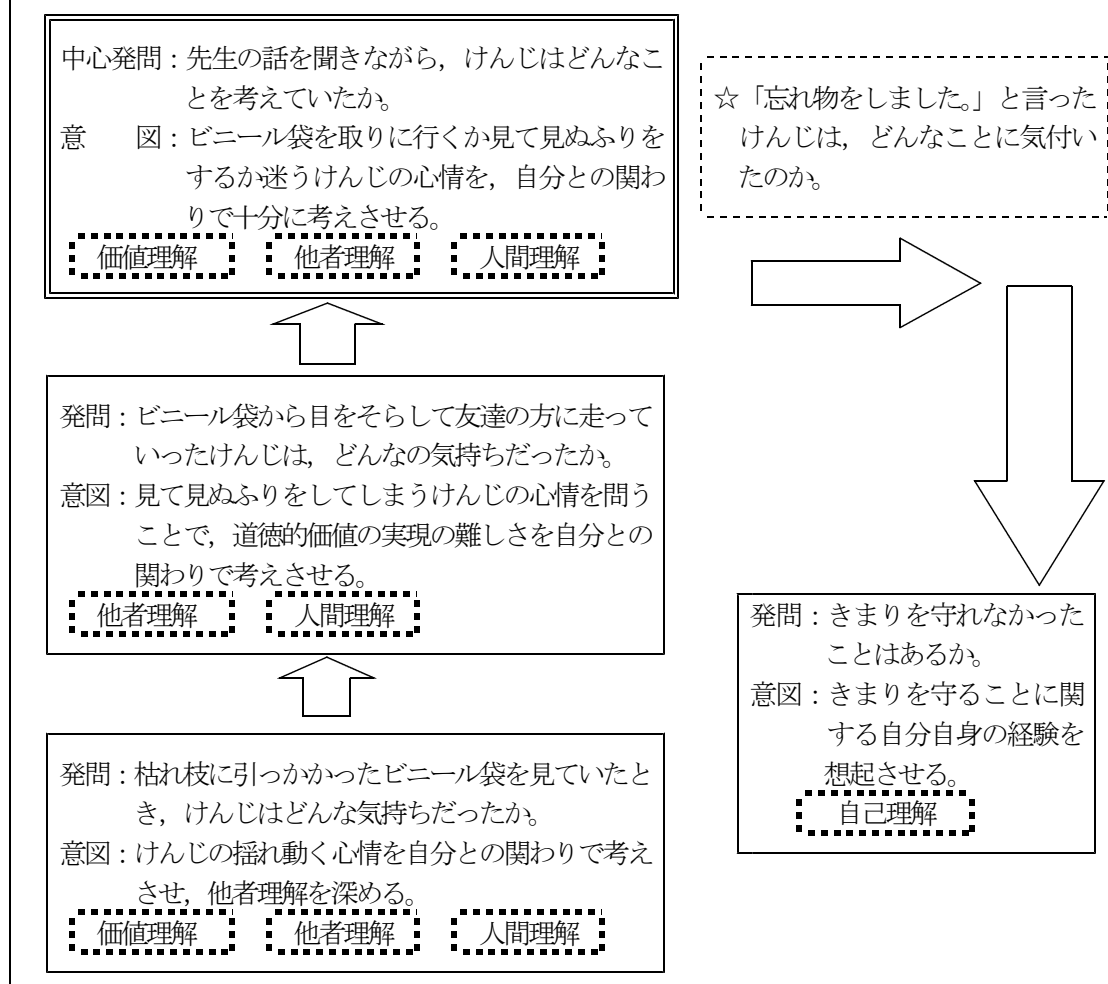
価値を追求する	<p>友達の方に走っていったけんじは、どんなことを考えていたのでしょうか。(よう。)</p> <p>(3) 先生の話の聞いているときのけんじの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>先生に「忘れ物はありませんね。」と言われてから、けんじは色々考えたでしょうね。どんなことを考えていたのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶ方が大事だ。 ・わざとじゃないから、いいよね。 <p>【他者理解】【人間理解】</p> <p><ビニール袋を取りに行かない> (水色)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう遅いよ。出発しなくちゃ。先生に叱られるよ。 ・誰も気付いてないからいいや。このまま知らん顔して帰ろう。 ・今頃行っても、もうビニール袋は風に飛ばされているかもしれない。取りに行っても無駄だ。 <p><迷う> (中間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。今から取りに行けるかな。すぐに拾いに行けばよかった。 ・このままじゃだめだけど、今から取りに行ったら遅くなっちゃう。どうしようかな。 <p><取りに行こう> (ピンク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま帰ったら、いろいろな人が訪れるきれいな河原を汚してしまう。やっぱり、取りに行こう。 ・来年の4年生に迷惑がかかるから、取りに行こう。 ・このまま帰ったら後悔するよ。ビニール袋を持ち帰って、スッキリしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんじの気持ちを想像してハートメーターで表させることにより、多面的に考えて自分と友達の思いや考えを比較したり共感したりできるようにする。 ・多様な考えを認め合い深め合うことができるように、友達の発表を聞いて考えが変わってもよいことを伝えておく。 ・ハートを動かすことを通して、けんじの揺れ動く心情の変化を視覚的にとらえやすくする。 ・<取りに行かない>という意見が出ない場合は、一度はビニール袋を見て見ぬふりをしてしまったけんじの心の弱さに気付かせ、道徳価値の実現の難しさに気付かせる。 ・迷ったけれどもビニール袋を取りに行ったことで、「正しい心」も取り戻せたことに気付かせる。 <p>◆迷っているけんじに共感することを通して、きまりを守ることの大切さについて考えを深めることができたか。(発表, つぶやき, 挙手)</p>
---------	--	--	---

	<p>☆「忘れ物をしました」と言ったけんじは、どんなことに気付いたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋を取りに行かなくてはいけないこと。 ・きまりを守ることが大事なこと。 <p>【価値理解】【他者理解】 【人間理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・けんじの気付きを考えさせることにより、きまりを守ることの大切さに気付かせる。
<p>価値を内面的に自覚する</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。 (1) きまりを守れなかった経験を振り返ると共に、今後について考える。 (今まで学校や公園など公共の場所できまりを守れなかったことはありますか。また、これからは、どうしたいと思いますか。) (どうして、これからはきまりを守ろうと思うのですか。)</p> <p>4. 教師の説話を聞く。 (トイレのサンダルがそろっていると、どんな気持ちになりますか。) ☆どうして、きまりを守ることが大切なのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のごみを袋に入れなかった。これからは、きちんと袋に入れたい。 ・廊下を走ってしまった。これからは、右側を静かに歩きます。 ・公園でうるさくしていて注意された。今度から、周りの迷惑にならないように、気を付けたいです。 ・勝手なことをすると、みんなが困るから。 ・学校や社会が楽しくなくなるから。 <p>【自己理解】</p> <p>【価値理解】</p>	<p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を思いつかない児童には、トイレのサンダルがそろえなかったり廊下を走ってしまったことなど、学校での具体的な事例や場면을挙げて声かけをする。 ・ワークシートに書かせることで児童一人ひとりが自分のこととしてきまりを守ることの大切さを実感でき、よりよい自分の未来を思い描けるようにする。 ・きまりを守れなかった経験と共に、その理由やそのときの気持ちを聞くことで、自己理解を深められるようにする。 ◆きまりを守れなかった経験を振り返ることで、きまりを守ることの大切さについて自分との関わりで考えることができたか。 (ワークシート、発表) ・トイレのサンダルがそろっている写真を提示し、きまりを守ると気持ちがよいことに気付かせる。 ・きまりの意義を問うことにより、きまりは周りの人をよい気持ちにさせ、よりよい人間関係を築くために大切なことであることに気付かせる。

6. 資料分析図

ねらい：公共の場において守るべき事柄を理解し、きまりを大切にしようとする心情を育てる。

授業の意図：きまりを守ることへの自分自身を振り返り理解を深めるために、先生の話聞きながら迷っているけんじを取り上げ、きまりを守ることの大切さ（価値理解）やきまりを守ることの難しさ（人間理解）について自分との関わりで考えさせる。



7. 授業記録（T：教師 C：児童）

T：先生に「忘れ物はありませんね。」と言われてから、けんじはどんなことを考えていたのでしょうか。

- C 1：整備されているから、このままでいいのかな？汚したくないな。（ピンク）
C 2：来年の4年生が使う場所だから取りに行こう。（ピンク）
C 3：このままにしたいけど、みんなが使う場所だしどうしようかな。迷ってる。（中間）

T : 水色の方の考えの子はいるかな？



(C 4 : 水色寄りにハートを貼る。)



別に置いていってもいいや。

T : どうしてそこ (少しピンクが混ざっているところ) に貼ったの？

でも、きれいにしたい気持ちもあるから。

T : 他の考えの子はいるかな？

C 5 : ちょっと面倒くさいけど、みんなが使う場所だからきれいにしよう。(ピンク)

C 6 : 誰かが片付けてくれるからいいや。(水色)

C 7 : どうせ強い風に飛ばされるからいいや。(水色)

C 8 : 待ってくださいと言ったら、先生に怒られてしまうかもしれない。(水色)

T : 色々な気持ちがあったけど、この後どうするの？

C 9 : 片付ける。

T : 先生に「忘れ物はありませんね。」と言われたとき、けんじ君はどう思ったからビニール袋を取りに行ったのかな？

C10 : きれいな川を汚したくない。

C11 : 違う小学校も次の4年生も嫌だし、自分も嫌。



8. 板書



9. 成果と課題

【価値を追求する】

- ハートメーターを活用することで、児童の多様な意見が視覚的にとらえやすかった。
- 多様な考えが出たことにより様々な考え方があることに気付き、自分の意見と友達の意見を比べながら考えることができた。
- 発表で終わるのでなく、一人の児童の考えを深め、広げていけるような発問ができるようになった。

【価値を内面的に自覚する】

- きまりを守ろうと思った理由を問うことにより、価値理解が深まった。
- 終末にトイレのサンダルがそろっている写真を提示したことで、きまりを守ることのよさを実感させることができた。
- ワークシートに書けない児童に、どう支援していったらよいか。